自主の旗
日教組和歌山
第１００号
1992. 3. 3.
編集部発行
☎ 36-6820

自主の旗 一〇〇号記念特集号 1

一九九〇年一月一五日に「自主の旗」第一号が出されて、ついに今回で一〇〇号を迎えることになりました。ちっぽけで、質素な機関紙ですが、「そういえばそんなこと自主の旗に載ってたなあ」などと、言ってもらうこともけっこうあり、そんな時はとてもうれしくなります。今後とも事実を大切にし、さまざまな情報と、考える材料を提供していきたいと思います。これまでのご愛（？）読に感謝するとともに今後ともよろしく御支援くださるようお願いします。

同志へ

やあ　元気かい
しばらく会わなかったね
あまりいい時代じゃないけど
生き生きしているよ
口べたなのは昔どおりだが
言葉に重味がでてきた
あの日の同志は
いつもぼくの胸の中にある

握手してくれ
温もりを感じたいから
ひたむきに歩いてきた
きみの姿勢に
希望の意志を見る
よりそう心がしだいにふえて
きみもいそがしくなった
いつかひまをみつけて
ゆっくり話したいね

忘れたわけじゃないさ
ぼくらの理想を
たたかう勇気も
ひとなみにもっているつもり
ふりむけば
遠い日の誓いが
雨にうたれている
それをどんなに
ぼくがいとしくおもっているか
きみだけは知っているはず

人を愛することが大事
風の自由が大事
そのことをぼくは
もう少し考えてみる
何かあったら
声をかけてくれ
できることなら何でもするよ
がむしゃらというよりは
静かな力で
きょうをつくるきみが
好きだ
じゃ
グッド・ラック

（紀ノ川中　島田博雄）

子どもたちのために前進しよう

日本教職員組合中央執行委員長
大場　昭寿

和歌山教職員組合の組合員の同志のみなさん、そして和歌山県内の教職員のみなさん、私は、みなさんにたいして、初めてご挨拶を申し上げます。

いま私たちや、日本の教育や子どもたちをとりまく状況は、たいへん困難でしかもたえず流動しています。

子どもたちは、受験地獄から解放されず、毎日重い気持ちで過ごし、明るさをとりもどせないでいます。

文部省は今年の九月から月一回の学校五日制にふみきりました。これを機会に子どもたちにゆとりをとりもどし、ひとりで考え行動できる時間を与えたいものです。

いま国会はたいへんな状況になっています。共和汚職事件、佐川急便事件などで、またまた政府自民党の金権汚職体質がありきらかとなりました。政治の腐敗状況をあますことなく国民の前に明らかにし、国民が安心できる政治、政権を目ざさねばなりません。その意味でも、七月の参議院選挙で勝たなければなりません。精いっぱいがんばりましょう。

日教組は、「全教」の分裂によって、たいへん苦労しました。みなさんがたの苦労はもっとたいへんだったと思います。

しかし仲間を信じましょう。北は北海道から南は沖縄まで、すべての都道府県と市町村に仲間がいて、それぞれが日本の子どもたちのことを一生懸命考えながら必死になってがんばっています。

私たちの未来はいまの子どもたちです。私たちの希望の星であるいまの子どもたちと、真剣にとりくむ姿がいちばん美しいと思います。

そのとりくみの様子を、お互いに語り合うとき、私たちはほっとするし、新しい情熱や希望が湧いてきます。子どもたち一人ひとりの顔が目に浮かんできます。そんなひとときに、仲間の励ましや慰めがどんなに心強いことか。

いま、日教組も日教組和歌山も、子どもたちのために教職員がみんなの仲間になることがとてもたいせつだと思っています。

おたがいに独善を戒め、他人の言葉を謙虚に噛みしめ、自分の意見も堂々と述べ、ひとつの結論がでたら、それをみんなのものにし、いっしょになって前進していく姿をだいじにしたいと思います。

子どもたちは、そんな姿をみて安心します。一〇〇号のご苦労に敬意を表し、子どもたちにも読んでもらえる新聞を期待します。